

令和7年度第1回美浜区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

1 日 時

令和7年8月26日（火）午後1時30分から午後3時00分まで

2 場 所

美浜保健福祉センター 4階 大会議室

3 出席者（29名）

（1）委 員

伊原委員、大川委員、太田委員、亀田委員、久保田委員、小柴委員、小谷委員、佐藤（州司）委員、佐藤（慶明）委員、鈴木委員、十川委員、長岡委員、長田委員、中村（征人）委員、中村（信子）委員、平野委員、水谷委員、森委員、吉川委員

※26名中19名の委員が出席

（2）事務局

大森美浜区長、内山美浜保健福祉センター所長（美浜区高齢障害支援課長兼務）、
濱田美浜区地域づくり支援課長補佐、三鴨美浜区健康課長、
星崎社会福祉協議会美浜区事務所長 他5名

4 会議の概要

（1）議題1 美浜区支え合いのまち推進計画の令和6年度進捗状況について

事務局から令和6年度の推進状況について、美浜区全体の取組みを説明した。その後、各地区部会エリアの推進状況について代表者から報告し、質問、意見、他の地区における取り組みなどの意見交換をおこなった。

＜稻毛海岸地区部会エリア＞

・太田委員（区連協稻浜中学校区）→稻毛海岸地区部会では、地域の区連協や青少年育成委員会などの役員を重複しているため、縦割りでなく、各組織における物事の流れを見ることができている。「スポーツ交流会」については、これまでグランドゴルフを実施していたが、子供たちも楽しめるモルックを種目に追加し、イベント名を「スポーツ交流会」に変えて実施した。参加者からは非常に好評で、グランドゴルフは高齢者向けのイメージがあったが、払拭する活動にできたと考えている。

・吉川委員（社協真砂地区部会）→これまでの取組みとスポーツ交流会に変更してからの参加人数に違いはあるか。

・太田委員（区連協稻浜中学校区）→これまで40名から50名程度であったが、スポーツ交流会に変更してから80名程度の参加があった。青少年育成委員会において学校経由で参加者募集のビラを配付しているが、上手く成果が出ていないため、募集の仕方を考えないとい

けない。地域の高齢者・保護者・子供が混ざったチーム構成を考えている。

・吉川委員（社協真砂地区部会）→真砂地区は、コロナ禍以降、参加者が減少傾向であるため参考にしたい。

・亀田委員（区連協幸町第二中学校区）→スポーツ振興会は参加しているか。幸町一丁目地区部会エリアでも取り組んでいるが、運営側が高齢化しており難しい状況にある。

・太田委員（区連協稻浜中学校区）→スポーツ振興会も参加している。稻毛海岸地区は上手く世代交代ができている地区であり、今は40代が実働部隊として組織運営に携わっている。

・長岡委員（区連協幸町第一中学校区）→稻毛海岸地区では新規マンションが次々建設されているが、自治会は結成されているのか。

・太田委員（区連協稻浜中学校区）→新規マンションの自治会結成率は4割程度と思われる。地区のイベント等は自治会がない地域にも開催を案内しており、その地域の子供たちも多く参加しているため、運営経費を含めどのように対応していくかは課題である。

＜幸町2丁目地区部会エリア＞

・長岡委員（区連協幸町第一中学校区）→当該地域において外国人居住者の割合が人口比15%にまで増加しており地域課題となっている。URでは、外国人労働者のために会社が社宅として一括借り上げをしている事例もある。外国人居住者は自転車置き場やゴミ出しルールなどで問題が生じており、また、地域住民とのコミュニティが形成されていないため、今後災害時に避難所の場所が分からぬといった問題が発生することが予想される。そうした中で地域では多文化共生の取組みとして、千葉大学の学生と協力して、外国人居住者に対して七夕や地域の祭りにも参加してもらうよう働きかけを行っている。

・小谷委員（区連協磯辺中学校区）→ゴミ出しなどの基本的なルールについては、UR・千葉市・市連協等と相談し問題解決に向けて進めていくべきでないか。

・長岡委員（区連協幸町第一中学校区）→会社が社宅として使用している住居について、URから個人情報を理由に情報開示がされないため苦慮している。今後この問題については千葉市等とも協議していきたい。

＜幸町一丁目地区部会エリア＞

・長田委員（社協幸町一丁目地区部会）→「健康スポーツの会」では、これまでのボッチャだけでなくモルックを新たに取り入れ活動をしているが、子供たちにも参加してもらえるような働きかけができるないことが課題である。歌の会「アネモネ」は、楽しく歌うことを目的とし20年間続いている、近年、男性の参加者も増えている。会場の設営は参加者が順番に行つており、地域のコミュニティとして活動できていると感じている。

・亀田委員（区連協幸町2丁目地区部会）→地域全体として一人暮らしの高齢者が増えており、緊急通報システムを普及させたい。また、冬期の防災訓練で、災害時用のボイラーを使用してもち米を炊き、「もちつき」を実施している。ボイラーを使用できる人を増やすことを目的としている。

＜高洲・高浜地区部会エリア＞

・十川委員（社協高洲・高浜地区部会）→「ふれあい食事サービス」は、20年近く継続している事業で、地区内3か所において地域のボランティアが食事のメニュー作りから調理まで自前でおこなっている。自治会組織のない地域の高齢者を対象にした合同敬老会を毎年開催しており、150名前後の参加がある。他にも花壇の手入れ、健康フェスティバルの開催など独自の取組みを実施している。

＜真砂地区部会エリア＞

・久保田委員長（区連協真砂中学校区）→地域支え合い活動「ささえあい まさご」は、ゴミ出しの支援や病院への送迎などで介護保険の対象にならない部分を補う形で活動をしている。地域のボランティア人材の確保のために広報紙にボランティア募集の案内を行うだけでなく、研修会を開催している。

・亀田委員（区連協幸町第二中学校区）→ボランティアの育成は具体的にどのように行っているか。

・久保田委員長（区連協真砂中学校区）→社協地区部会が主体となって研修を実施しており、イベントなどで一般的な活動内容を説明している。イベント毎にボランティアを募集しており、通常のイベントでは30名程度の応募がある。

＜磯辺地区部会エリア＞

・水谷副委員長（民生委員児童委員協議会）→令和6年度からの新たな取組みとして、障害者の事業所へ出向き一緒に活動している。その中で、地域の高齢者世帯では庭木の夏みかんなどの手入れが難しいケースが増えているということが分かり、その夏みかんを利用してマーマレードづくりを行うなどの取組みを事業所と共同で行うことができた。このように今後はイベントを開催して参加してもらえる方を待つだけではなく、こちらから出向いていく取組みを検討していきたい。

＜幕張西地区部会エリア＞

・平野委員（社協幕張西地区部会）→令和6年7月から「幕西5656食堂」（地域子ども食堂）を月1回開催している。幕張西地区の広報誌等への掲載、スーパー・宅配事業者等による食材の提供、調理などのボランティア等、様々な方々にご協力いただいている。今年の7月で1年となるが、利用者等に大変好評であり、各団体・企業等が連携して良い運営ができているため引き続き継続していきたい。

＜打瀬地区部会エリア＞

・小柴委員（社協打瀬地区部会）→打瀬地区の特徴的な活動として、コミュニティースペース「絆」がある。幕張ベイタウン商店街振興組合が運営しており、新型コロナウイルスが感染拡大した令和2年頃にベイタウンのマンションの1階店舗部分を借り上げ、感染症対策をしながら住民間の交流ができるスペースを提供する形でスタートした。現在5年経過し、利用方法は自由であるため、高齢者から子供まで予約は埋まっている状態である。高齢者の健康マージャン、

子供達の書道教室、認知症カフェを含めた様々なカフェなどで利用されており、この取組みは住民間の繋がりの構築という重要な役割を担っているので継続していきたい。

- ・太田委員（区連協稻浜中学校区）→利用料金を設定しているか。
- ・小柴委員（社協打瀬地区部会）→1時間あたり1,000円+消費税で設定している。当初、3時間で3,000円だったが、1時間だと割高だったので1時間単位で設定した。
- ・佐藤委員（ボランティア連絡協議会）→以前に認知症カフェに参加させていただいたことがあり、非常に良い雰囲気で活動されていた。

資料1の「美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）」について、全会一致で承認された。千葉市社会福祉審議会地域福祉分科会に美浜区の状況として報告する。